

会 見 年 月 日	令和 8 年 8 月 1 8 日（火曜日）		
担 当 課	行政課（行政係）	（担当者名：山本、田中）	
問い合わせ先	TEL：0791-43-6850	（内線：2301）	FAX：0791-43-6892

核兵器のない平和な社会の実現を目指して 広島・長崎の原爆の日に当たる取組と「非核平和展」の開催結果について

1 趣 旨

本市は、昭和 6 0 年の「非核平和都市宣言」以来、核兵器の廃絶と世界恒久平和の実現に向けた取組を続けています。

今年も、広島・長崎の原爆の日にあわせて両被爆地の市長から力強い平和宣言が発せられ、平和首長会議の加盟都市である本市に対しても、国際世論の醸成・拡大に向け、当該宣言の幅広い周知について依頼がありました。核兵器をめぐる国際情勢が依然として厳しい中、本市としても両被爆地と連帯しながら、平和の尊さを次の世代へ伝える取組を着実に続けてまいります。

2 内 容

(1) 広島市長への「平和へのメッセージ」送付

広島原爆の日（8 月 6 日）にあわせて、広島市長宛てに「平和へのメッセージ」（別紙 1）を送付しました。

メッセージでは、原爆犠牲者への哀悼の意を表するとともに、核兵器の廃絶と世界恒久平和の実現に向けて、被爆地・広島と連帯して粘り強く取り組んでいく決意をお伝えしました。

(2) 広島・長崎両市長による平和宣言

広島・長崎の原爆の日において、両被爆地の市長からそれぞれ平和宣言（別紙 2、3）が発表されました。

核兵器による威嚇や国際法の軽視が続く厳しい国際情勢の中、「第三のヒロシマ・ナガサキを生んではならない」という被爆地の切実な訴えは、かつてなく重みを増しており、本市としても、この訴えを市民とともに受け止め、平和への意識を高めてまいります。

(3) 「令和 8 年度（第 4 0 回）赤穂市非核平和展」の開催結果

本展は、昭和 6 2 年から毎年開催しており、今回で第 4 0 回の節目を迎えました。期間中は約 4 0 0 人の方にご来場いただき、核兵器廃絶と平和の大切さを改めて考える機会となりました。

第 4 0 回という節目は、本市が長年にわたり市民とともに平和への取組を積み重ねてきた証であり、今後も、この歩みを次の世代へ着実に継承してまいります。

平和へのメッセージ

広島市長 松井 一實 様

原爆の惨禍を受けてから八十一回目の夏、今年も厳しい暑さの中で、原爆投下の日を迎えました。

私たち赤穂市民は、毎年この日を新たな平和への誓いの日として、あの惨禍が二度と繰り返されることのないよう切に願うとともに、原爆の犠牲となられた数多くの方々の御霊に対し、謹んで哀悼の誠を捧げます。

そして、今なお被爆の後遺症に苦しんでおられる方々に、衷心よりお見舞いを申し上げます。

現在、戦争を直接知る世代が少なくなる一方で、世界各地では武力紛争が絶えず、核兵器をめぐる緊張や国際社会の分断が深まるなど、平和と安全保障を取り巻く環境は混迷を極めております。このような緊迫した国際情勢だからこそ、戦争の記憶と被爆の実相を風化させることなく、次の世代へ確実に継承していかなければならないという重要性の認識を改めて強くしております。

貴市におかれましては、毎年八月六日に原爆死没者慰霊式・平和祈念式を挙行され、原爆の犠牲となられた方々の御霊を慰められるとともに、全世界の人々に対し、一日も早い核兵器の廃絶と世界恒久平和の実現を訴えられ、平和へのためまぬご努力を重ねておられます。

当市におきましても、昭和六十年に「非核平和都市宣言」を行い、平和の尊さを次代に伝えるため、非核平和展の開催や「平和首長会議」への加盟など、非核平和事業を推進してまいりました。さらに、被爆・終戦から八十年の節目を契機とし、昨年度からは被爆体験伝承者による講話会を開催するなど、平和への願いや被爆の実相の継承に一層努めているところです。

人類史上唯一の戦争被爆国である私たちの願いと声が、核兵器廃絶を求める世界の声となり、世界平和の実現に向けて貢献していくことを切に願ってやみません。私はここに赤穂市民を代表し、貴職をはじめ広島市民の皆様方の恒久平和へのご尽力に対し、深甚なる敬意を表しますとともに、当市としましてもその志を共有し、今後とも皆様と相携えて、平和の尊さを次の世代へと確実に継承し、世界平和の実現に向け粘り強く取り組んでまいる所存であります。

結びに、「国際平和文化都市」広島市のますますのご発展と、皆様のご健勝、ご多幸を心より祈念申し上げます、平和へのメッセージといたします。

令和八年八月六日

赤穂市長

年礼正稔

平 和 宣 言

被爆から 81 年が経過した今、私たちが暮らすこの地球上では、核を脅しの道具に使った軍事侵攻や国際法をないがしろにする大国の横暴な振る舞いが繰り返されています。また、今年開催された N P T (核兵器不拡散条約) 再検討会議では、過去 2 回に続き成果文書が不採択となりました。その原因は、他国に責任を転嫁し自国の行動を正当化する為政者の言動にあります。また、こうした為政者の言動は、N P T が定める義務を無視するに等しく、世界の平和と安定を根底から揺るがすものです。

このままでは世界中で不信の連鎖が進み、欲望がむき出しになっていた第二次世界大戦の時代に回帰してしまいます。核兵器の非人道性を軽視し、自国の繁栄のための武力行使を認めることは、暴力を伴う報復の連鎖を許容し、第三のヒロシマ・ナガサキを作り出すことになりかねません。

皆さん、ここで再度、あの惨禍を生き抜いた被爆者の体験に耳を傾けてください。当時 16 歳だった女性は優しくかった姉のことを振り返ります。まるで骸骨のように皮膚が崩れてなくなり、唇のない口から歯がむき出しになっていた姉の顔は、悪夢のようで信じられなかった。また、3 歳で被爆した後に次々と病に襲われ、55 歳で白血病を発症し原爆症と診断された女性は、いつも次にどんな病気がくるのかという恐怖と隣り合わせの日々だったといいます。また、別の当時 9 歳だった男性は、多くの一般人が犠牲になっているロシアによるウクライナ侵攻を目の当たりにし、争いが起きない世界を創るため、自分の中の争いの心を乗り越え、相手の考えを受け入れる気持ちを持ってほしい、とりわけ若い世代には、そのために身近なことから考えてほしいと訴えます。

市民社会は、こうした被爆者の声や被爆者の思いを伝承する活動に鼓舞され、核兵器廃絶と平和を願う行動の輪を、国境を越え世代を超えて広げてきました。しかし、多くの為政者は現実的な対応として核抑止力に依存し続け、暴力を肯定する国際社会が出現し、核兵器のない世界は遠のくばかりです。戦争の記憶が薄れることで核兵器の使用が容認されかねない時代を生きる私たちは、今改めて、国連を創設し核兵器廃絶を決意した過去の教訓を学び直す必要があります。そして、一人一人があらゆる暴力を否定し、核兵器廃絶という理想を理想で終わらせない国際社会を創り上げるための行動を起こす必要があります。

そこで、若い世代の皆さんに提案があります。価値観の異なる人々との国境を越えた交流を深めてください。そうすることで、嬉しさや楽しさ、夢や希望を共有することができます。既に世界の多くの若者が、広島を始め様々な場で被爆の実相を学び、交流を深めています。皆さんも平和のために日常生活の中でできることを実践し、自らの思いを発信することで、その行動の輪を広げていってください。こうした取組は、お互いを認め合う平和文化を世界中に根付かせ、核兵器廃絶を国際社会の常識にすることにより、為政者が核抑止力に依存することを認めない環境づくりにつながります。広島市は、平和首長会議の 8,589 の加盟都市と連帯し、平和文化を世界中に広め、次の世代に伝える活動を後押しするとともに、「ヒロシマの心」を世界に訴え続けます。

世界の為政者の皆さん。市民社会は一日も早い核兵器廃絶を願っています。いったい、いつまで失望させ続けるのですか。核兵器の使用が人類に壊滅的な被害をもたらすこと、そして核軍縮・不拡散は、多国間で取り組むべき課題であることを十分理解されているはずです。また、核保有国の為政者の皆さんは、核軍縮に大きな責任を有しているのですから、自ら範を示す必要があることを十分認識されているはずです。世界の為政者の皆さん。自ら被爆地を訪れ、ヒロシマ・ナガサキの悲劇と真剣に向き合い、被爆者の平和への思いを受け止めてください。私たち市民社会は、為政者の皆さんが被爆地から核兵器廃絶への決意を世界に発信し、そのための政策を実行することを心から待ち望んでいます。

日本政府には、日本国憲法が掲げる崇高な理想を深く自覚し、国際社会において名誉ある地位を占めるための歩みを止めないでいただきたい。とりわけ、各国との分断や対立が生じかねない厳しい安全保障環境にあるからこそ、国民に犠牲を強いることのないよう、したたかに粘り強い外交に徹する中で、国際社会の平和と安定に向けて貢献し続けることを表明し、実行していただきたい。そのためにも、まずは今年 11 月から開催される核兵器禁止条約の再検討会議にオブザーバー参加し、そして、一刻も早く締約国となっていいただきたい。また、平均年齢が 86 歳を超えた被爆者の支援策については、今なお抱えている様々な苦しみや苦悩に寄り添い、在外被爆者を含めた被爆者援護のあり方を踏まえた上で、その充実を図ることを強く求めます。

本日、被爆 81 周年の平和記念式典に当たり、原爆犠牲者の御霊に心から哀悼の誠を捧げるとともに、核兵器廃絶とその先にある世界恒久平和の実現に向け、力を尽くすことを誓います。そして、改めて市民社会に呼びかけます。世界中の皆さん、被爆者の切実な思いが込められた「ヒロシマの心」を胸に、共に行動することで世界を変えていきましょう。

令和 8 年 (2026 年) 8 月 6 日

広島市長 松井 一實

1945 年 8 月 9 日、米軍機が投下した一発の原子爆弾は一瞬にして長崎のまちを破壊し、その年の終わりまでに人口の 3 分の 2 にあたる 15 万もの人々が死傷しました。

13 歳で被爆した故・吉田勝二さんは、地獄のような惨状をこう語っています。

爆心地の方に向かうと黒焦げで炭化した人、目が飛び出ている人、内臓が飛び出した人、手足がない人たちが右往左往していた。浦上川にたどり着くと、ここも焼けただれた多くの人が、油と血と汚れた水、その水を飲みながら次々に亡くなっていった。私は、全身血だらけ、皮膚は剥がれ体の下の方にだらりとぶら下がっていた。顔も皮膚は付いていたものの、どす黒く焼け焦げていた。

吉田さんの顔には生涯消えることのない大きな火傷^{あと}の痕が残り、周囲からの視線に苦しみ続けました。辛うじて死を免れた人々も、心身に深い傷を負い、放射線の影響でがんなどが発症することへの不安と恐怖を一生抱え続けています。

今、地球上に存在する核弾頭は、1 万 2 千発以上。

なぜ、これほど残酷な兵器に固執する国があるのでしょうか。

国際社会に蔓延する相互不信と対立・分断を背景に、大国の「力による支配」が横行しています。核保有国が当事者となったウクライナや中東の紛争も未だ予断を許さない状況です。さらには、核兵器の近代化や増強など、核軍縮に逆行する動きが加速しています。こうして、相互不信と対立・分断を一層深刻化させる悪循環に陥っているのです。

これは、核兵器不拡散条約（NPT）再検討会議が核軍縮に向けた成果文書を 3 回連続で採択できなかったことでも浮き彫りになっています。

核兵器に依存する国は、核兵器を実際に使用しなくても、保有することで他国に攻撃を思いとどまらせることができるという「核抑止論」を主張します。しかし、戦争という極限状況の中で自国の存亡を懸けた究極の判断を迫られたとき、それでもなお「核のボタン」を押さないと、誰が言い切れるのでしょうか。

広島・長崎への原爆投下^{ばくせん}は、人間が人間への核兵器使用という一線すら越えてしまう現実を突きつけました。

人間の命も尊厳も木っ端微塵に破壊する核兵器の威力を身をもって知る被爆者や被爆地は、その体験から確信をもって訴えます。

核抑止論は、極めて危うい。核兵器は「必要悪」ではなく「絶対悪」であり、人類と核兵器は決して共存できない、と。

一つの地球に暮らす「地球市民」の皆さん。平和な世界をつくるために、私たちにはできることがあります。

「平和の原点は、人間の痛みがわかる心を持つこと。」

これは吉田さんが被爆体験を語るとき、いつも伝えていた言葉です。

相手の立場や苦しみに心を寄せ、分かり合おうと努力することは、対立や衝突を避けるための大事な一歩となります。それが人と人、国と国、それぞれの場面で信頼を育み友好関係を築く礎になるのです。

吉田さんの言葉を心に刻み、行動につなげていきましょう。

すべての国の指導者の皆さん。国連憲章の理念に基づく多国間主義と「法の支配」を早急に取り戻してください。人間の尊厳と基本的人権を守り、国際協調を通じて恒久平和と人類共通の繁栄を実現するという国連創設時の精神に立ち返ってください。

核保有国と核抑止力に依存する国の指導者の皆さん。核抑止力に頼れば頼るほど、核戦争の危険もまた高まる現実を直視すべきです。NPT の義務を履行し、核軍縮に向け着実に前進することを強く求めます。

とりわけ日本政府は、今年初めて開催される核兵器禁止条約再検討会議に参加し、唯一の戦争被爆国としての歴史的使命を全うすべきです。不戦の決意が込められた日本国憲法の平和の理念と非核三原則を堅持し、国際社会の緊張緩和と軍縮に向けた外交を強化してください。北東アジア非核兵器地帯の実現などを通じて、核兵器に頼らない安全保障政策への転換を求めます。

さらに、平均年齢が 86 歳を超えた被爆者への援護の充実と、未だ被爆者と認められていない被爆体験者の一刻も早い救済を強く要請します。

原子爆弾で亡くなられた方々とすべての戦争犠牲者に、心から哀悼の誠を捧げます。

被爆者の声を直接聞くことのできる今だからこそ、未来へ向けて被爆の記憶と被爆者の思いをしっかりと受け継いでいきます。

「長崎を最後の被爆地に」。この誓いを永遠の事実とするために、長崎は世界中の平和を求める人々と連帯し、核兵器廃絶と世界恒久平和の実現に向けて、決してあきらめず歩み続けていくことをここに宣言します。

2026 年（令和 8 年）8 月 9 日

長崎市長 鈴木 史朗